



# うきうき こどもっくろ

季刊 第32号

2015年9月発行

## ファミリーセンタードケア: NICU で過ごす赤ちゃんのために 新生児科 野口聡子

新生児集中治療室(NICU)では、予定よりも早く小さく生まれた赤ちゃんや、生れてまもなく病気があったとわかった赤ちゃんを診療しています。

出生 1000 人のうちおよそ 3 人はなんらかの理由で NICU での治療が必要であると言われています。NICU で治療を受ける赤ちゃんは、点滴や人工呼吸器、モニターなど多くの機械に囲まれています。また NICU 内では赤ちゃんの治療や安全を配慮して様々な決まりごとがあります。ご家族と赤ちゃんと一緒に過ごせる時間が「面会時間」によって決まっていたり、赤ちゃんの状態によってはご家族が赤ちゃんを抱っこできないことや、手を握る事さえ難しい場合もあります。

生まれたばかりの赤ちゃんが病気になり、入院してしまうことはご家族にとって、とても辛く悲しいことです。頑張っている赤ちゃんもまた、ご家族と離れて過ごすことを寂しく感じていることでしょう。

ファミリーセンタードケアとは、医療者がご家族と協力しあいながら、家族と赤ちゃんのもつ「元気になる力」をひきだすようなケアを目標とするものです。赤ちゃんは病気である前に「こども」であり「家族の一員」です。赤ちゃんが集中治療を受けながらも、ご家族の愛情や応援のパワーを十分にうけとれることは、赤ちゃんの回復につながる大切なことであると考えられています。

私たちはそのために、ご家族が NICU のなかで少しでもリラックスできるような工夫や、ご家族と一緒にできる赤ちゃんのケアの方法について考えながら日々の診療や看護を行いたいと考えています。

医療者も、ご家族も、赤ちゃんに元気になってもらいたいと思う気持ちは同じです。赤ちゃんが退院となり、ご家族と楽しく過ごせる日がくることを目指して、一緒に頑張っていきたいと思っています。



ご家族とスタッフの願いがこめられた、七夕飾りです。

## 夏祭り花火大会



平成27年7月24日(金)曇り空のもと、夏祭り花火大会が行われました。今年はなかま会が「射的」「だるまおとし」「ヨーヨー釣り」の夜店を出して、沢山のお客さんを迎えました。「だるまおとし」では話題のマツコ・デラックスやバイキンマンが登場！巨体を一撃で倒そうと、長い列ができていました。



最後の花火大会。リハビリテーション課スタッフの身を挺した仕掛け花火には観客席から驚きと応援の声があがっていました。

そしてフィナーレはみんなが心待ちにしていた打ち上げ花火。夏の夜空に満開の花火がひろがり、楽しいひとときを味わいました。

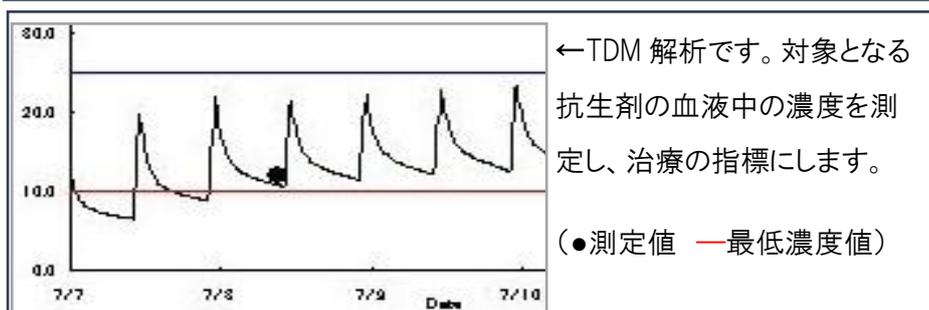
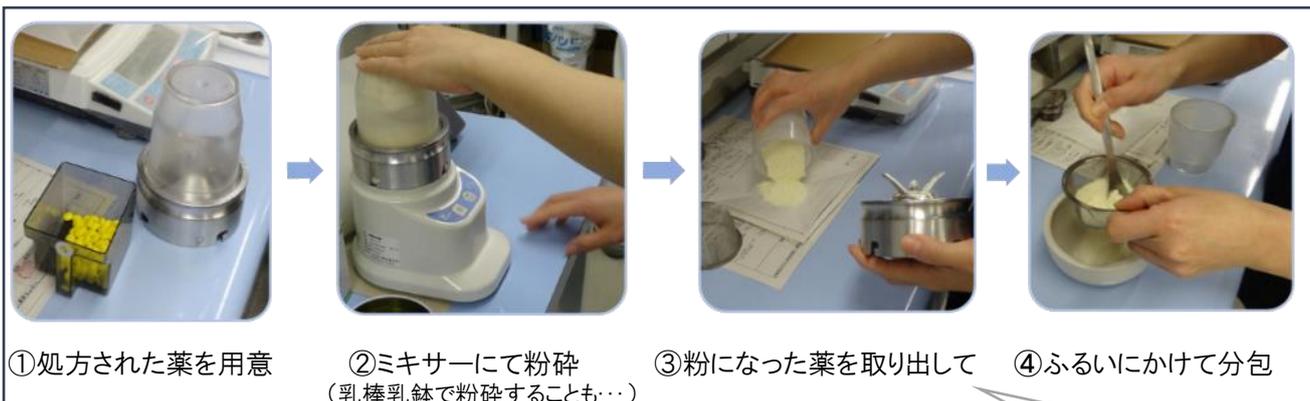


## コドモックルの地下一階からこんにちは！薬局です！

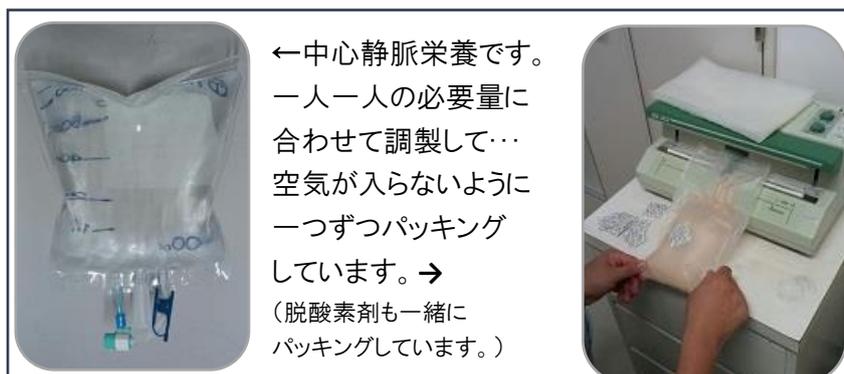
現在4名で、入院内服注射調剤、外来院内調剤、無菌製剤調製、抗がん剤調製、TDM解析等行っています。こども病院ならではの工夫もしています。そんな私たちの仕事の一部を紹介します！



こども病院なので、こな薬が多く処方されますが、なかには錠剤しかない薬もあります。そのような時は錠剤を粉砕して調剤します。大まかな流れがこちらです。↓



↑カプセルをはずして調剤することもあります。



薬局内にいることが多いため、あまりお会いする機会がありませんが、なにかありましたらお気軽に病院スタッフにお申し出ください。



↑入院・外来化学療法における抗がん剤調製中の写真です。安全キャビネット中で作業を行っています。